

① スティーヴ・パーカー 著；的場知之 訳

『動物が見ている世界と進化』

(エクスナレッジ)

ヒトの脳が処理する情報のうち、4分の3以上は眼から入ってくるとされる。すべての動物種の90%以上が、何らかの視覚処理の能力を持つ。ヒトの視覚についてなら、自身の経験からわかる。それでは他の動物は、わたしたちと同じように世界を見ているのだろうか？

ほぼすべての脊椎動物と多くの無脊椎動物は、2つの眼を持つ。眼が2つある理由は何か。色はどれくらい認識できているのか。爬虫類や鳥類にある透明の瞬膜の意味は！？単眼と複眼の構造など、動物の眼と眼の進化について、わかりやすく解説しています。(Y.N.)

481.37 ||Par

③ レスリー・ジェイコブス・ソルモンソン 著；井上廣美 訳

『ジンの歴史』

(原書房)

バーのカクテルメニューの定番の一つ「ジン」。イギリスで親しまれ、同国の作家チャールズ・ディケンズ作品にも登場します。しかし原産・原料はオランダの西洋ネズ、ジュニパーからです。

上流階級から庶民まで幅広く流行し、ペストの特效薬と目されたこともある一方、誰でも入手出来るため「ジン・クレイズ(狂気のジン時代)」「貧乏人の酒」「呪うべき悪魔」など数々の罵倒を加えられ、あらゆる犯罪の温床とレッテルを貼られました。

本書はそんなジンの名酒一覧やレシピを載せています。18世紀頃にその名が知られてから進化を続け、21世紀初頭には新酒の「クラフト・ジン」が誕生しています。現在も進化の可能性を秘めるジン。その知られざる歴史に迫ります。(H.I.)

588.57 ||Sol



② 榎本博明 著

『ビジネス心理学 100本ノック』

(日本経済新聞出版社)

心理学は、日々の生活に密着したものです。人間関係、やる気、人事評価、リーダー、マーケティング等、職場の人間関係を中心に、仕事で活かすことができます。本書はビジネス心理学の100項目に及ぶ課題の徹底的なトレーニングと、日本人ならではの特徴もふまえた解説が書かれています。例えば、自己効率感としては、実行につながる4つの方法や、業績目標・学習目標としては「できる人」は目標の持ち方が、どうちがうのでしょうか？等。なかなか難題ぞろいですが、答えられない箇所のヒントも掲載されています。また、各章末に「チェックポイント」として、ビジネスの武器となるポイントが書かれています。一度、楽しみながら試してみてください。(M.F)

335.14 ||Eno

④ 小林真理 著

『画家のブックデザイン：装丁と装画からみる日本の本づくりのルーツ』

(誠文堂新光社)

昨今では、場所を取る、持ち運びに不便、スマートフォンの普及などという理由で電子図書に取って代わられることの多い紙の本。本学図書館でも、増え続ける図書の配架には頭を悩ませるところですが、あえての書物の魅力を探っているのが本書となります。

本は、中の文章を読むだけでなく、表紙やカバー、装画などの、装丁と呼ばれるデザイン的美を楽しむ芸術としての一面もあり、かつて日本では多くの画家がブックデザインを手掛けてきました。明治後期から昭和にかけて、今なお色褪せぬ日本独自に発展した装丁文化を紹介した、本好きには見逃せない一冊となっています。(N.T.)

022.57 ||Kob